

漢法苞徳塾資料	No. 523
区分	資料
タイトル	鍼灸補瀉の表
著者	漢法苞徳会
作成日	

鍼の補瀉	補	瀉
陰陽	陰病は補	陽病は瀉す
呼吸	呼吸に鍼を刺入し、吸息に抜く	吸息に刺し、呼息に抜く
鍼尖	鍼を温めて用ゆ	鍼を温めずに用ゆ
堤按	穴所を爪で強く押えて刺入する	穴を強圧せず
開閉	抜鍼後直ちに鍼痕をよく閉じる	閉じずにそのままにして置く
迎隨	経に随って斜鍼する	経に逆らって斜鍼する
用捨	無痛になるように刺鍼する	多少痛みてもよし
出内	徐刺徐抜、正気を集める	速刺速抜、邪気をもらす
過・不及	病人の気根により弱きに弱く用ゆ	強きに強く用ゆ
弾爪	穴所を爪で弾き、気血を呼びて刺す	そのまま刺す
揺動	刺入せる鍼を震わせて催気す	動揺大いにし穴を大にして邪気をもらす
子母	虚せる経の母を補う	実する経の子を瀉す
虚実	麻痺、痒は虚なり、これに用う 按えて気持ちよきは虚なり	痛腫は実なり、これに用う 按えて痛むは実なり
方円	円は補なり、移なり、宜なり、補気なり (子母の補瀉の意味もある)	方は迎えなり、盛気を瀉す
寒熱	寒は補(温)す	熱は発散し之を瀉す
浅深	浅く	深く
太細	細く	太く

	補	瀉
灸の補瀉	点火し自然燃焼せしむ。 温々冬日の如き熱感を与えるようにする。 乾燥し、良質の艾を柔らかに撮み、皮膚に軽くつけ、燃焼した灰の上から施灸続行、小炷、炷を高く底面を狭くする。	点火燃焼まさに皮膚に達せん時、風を送り早く消失せしむ。猛烈な夏日を思わすように劇しい熱感を与えるように施灸する。 艾は良質でなくてよし。硬艾を撮む、皮膚に密着するように貼ずる、燃焼した灰を一々除いて施灸する、大炷、炷の丈低く底面を広く施灸する。